

プリザーブドフラワー シェリー

日時：9月 11日(金) 10:00~12:00
26日(土) 13:00~15:30

☆体験随時 3,000円 (全て込み)
☆ブーケ・お祝い・お見舞等 オーダー・レッスン
承ります。
☆趣味・資格・加工資格コース有

お問合せ・お申込み：
片岡 090-7267-4498
HP <http://p-f-cherie.petit.cc/>

韓国語講座

日時：9月 14日(月) 9月 28日(月)
初心者クラス 10:00~11:20
会話クラス 11:40~13:00
会費：3500円

初心者クラス： 全くとめての方を対象としたやさしい会話を習うクラスです。
会話クラス： 韓国語検定4・3級程度の韓国語が出来る方を対象とした会話クラスです。

講師 遠 美仙
韓国ソウル出身。ソウルにて誠信女子大を卒業後、筑波大学の大学院修士課程を修了卒業

お問合せ・お申込み
篠崎
080-5543-7489

甘味Cafe 空~くう~にて

★紅茶講座(体験講座)★

日時：9月26日(土)
10:00~12:00
料金：2,000円(ケーキ付)
持ち物：布巾、筆記用具、お気に入りのティーカップ&ソーサー
(特になければこちらでご用意します)
定員数：5名

★美味しい紅茶の淹れ方を学んでみませんか?
★レッスンの後は、ティータイムがあります!

お問合せ・お申込み
090-6134-6647 伊藤

甘味Cafe 空~くう~で
一日オーナーになってみませんか

ケーキ・和菓子・飲み物・ランチetc...
ちょっとした喫茶店を貸しきってのホームパーティ
のように沢山の方々に腕をふるってみたい!?
もちろん私達スタッフもお手伝いさせていただきます。
詳しくは 0297-60-1666 (カタロ) まで

甘味Cafe 空~くう~にて

Misa Quilt (ミサキルト)

毎月1回 ミサキルトの講習会を空~くう~で行います
手芸のお好きな方興味のある方、
教室でない空間でキルトを楽しんでみませんか!!

~ハワイアンキルトバック作り~
日時：9月28日(月) 10:00~13:00
料金：3000円
(材料費込ケーキセット付)

定員数：5名
お問合せ 荒井美佐子 0297-60-7207

~おすすめ商品 今月の . Com ドットコム~

大好評!

ガス風呂給湯気24号タイプ
GT-2450SAWXBL マルラリモコンセント
97,200円 通常定価324,000円の
70%OFF!!

標準取付け工事費 25,000円(LP ガスの場合)
都市ガスの場合 (別途見積40,000円前後)
★現在の給湯器の種類により設置工事費が増減する場合がございます。
★現場を見せていただきます!お気軽にお電話下さい!

北澤工務店が、数ある商品の中から選りすぐったものを、どこよりも安い . Com 価格でご提供させていただきます。

カタロ通信

<http://www.e-kitazawa.com/>

VOI. 139

2009年9月号

北澤工務店

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-7
TEL: 0297-60-1333
FAX: 0297-60-1311
e-mail: info@e-kitazawa.com

カタロ

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-12
TEL: 0297-60-1666
閉館日: 水曜日
e-mail: kataro@e-kitazawa.com

甘味Cafe 空~くう~

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-12
TEL: 0297-63-0730
定休日: 水曜日
e-mail: kuu@e-kitazawa.com

財団法人性能保証住宅登録機構加盟建設業許可茨城県知事(般-17)第22696号 宅地建物取引業者茨城県知事免許(3)第5344号



~昨年の「カタロ市の日」の様子です~



...北澤工務店&甘味Cafe空~くう~から...



★9月のミニショップは・・・手芸工房 亜雅沙 『ハンカチブローチ』
きまま 『陶器』 さんです。



カタロ市の日 開催日決定!
11月29日(日)
10:00~16:00

約20店舗の手づくりショップが集合!
是非お出で下さいませ!

第9回 カタロ市の日 ショップオーナーさん募集



毎年恒例の市の日のご案内です。
みなさま ご存知の通り
今年もたくさんのお手づくりショッ
プが並びます。
第9回 カタロ市の日
手づくりショップを出店してみま
せんか？
お気軽にお問い合わせ下さい・・・



開催日時 11月29日(日)
10:00~16:00
開催場所 カタロ1. 2階・駐車場
募集店舗 20店舗
参加費 2000円
応募締切 9月10日(木)
申込先 カタロ
0297-60-1666



もう、終戦から64年もの年月が流れたんですね。戦後の裕福な社会で生まれ育ったばかりには、到底、想像すらできない『戦争』も、今は『歴史』の1ページになってしまおうとしています。今月号のひとごとは先月号にひきつづき、『知覧ツアー』の後編を書いてみたいと思います。

と、書き始めようと思ったのですが、困りました。どのような文章構成にするか、浮かんでできません。特攻隊員の短くも激しい人生のドラマを書こうとも思ったのですが、そんな、簡単に書くことができるわけがありません。書物を開き思いをめぐらせると、熱いものがこみ上げてきてしまっ、...

《ホテル館》

知覧にはお昼過ぎに到着しました。明久さんが経営する『知覧茶屋』で昼食をご馳走になり、まずは『ホテル館』に行くことになりました。ホテル館は、かの『富屋食堂』を復元した資料館です。この場所は、『知覧特攻平和会館』とは全く違う意味を持つ場所です。特攻平和会館は『公設』であるために、公式な特攻作戦によって散華した英霊を祀ってあります。しかし、このホテル館は『ひととしての特攻隊員』を祀っているのです。理屈を超えた『人間』の存在がありありと浮かんできます。これはこれまで7回知覧に巡礼してきたぼくが、今回最も大きな感動としてはっきりと感じ取ることができたものです。全く違う役割を持つ場所なのです。

入館すると明久さんが迎えてくださいました。びっくりするくらい別人の顔となってぼくたちの前に立たれました。その変容は、亡くなられた礼子さん、そしてトメさんの魂が乗り移っているのしか思えない程です。そして語り始められました。

一人ひとりの隊員さんのたどった軌跡・・・。愛する人との別れ、家族への思い、激しい意思の力、そして人間としての生の証・・・。館内は涙に溢れました。なぜこんなに涙がでるのだろう。いまもぼくは涙を流しながらこの文章を書いている・・・。



母を亡くし、孤独だった光山文博少尉は毎日のように富屋に入りした。出撃の前夜(昭和20年5月10日)、トメたちを前に祖国の歌アリランを泣きながら歌った。



宮川三郎軍曹(第104振武隊)は、出撃の前夜(昭和20年6月5日)、富屋でトメに「死んだらまた小母ちゃんのところへ帰ってきたい」「そうだ、このホテルだ」「おれ、このホテルになって帰ってくるよ」と言い残して暗い夜道を帰っていった。

《藤井一中尉(少佐)》

茨城県水海道市出身 第45振武隊隊長、藤井一中尉は、特攻出撃も終わりに近い5月28日、部下を率いて出撃、還らぬ人となった。戦争が始まった頃、藤井中尉は少年飛行兵の教官に就任した。彼は自分にも厳しい人で、戦争が激化し、かつての部下だった少年飛行兵たちの戦死の報を聞くにつれ、『お前たちだけを死なせるわけにはいかん』が口癖になり、自ら特攻兵を志願した。藤井中尉は年齢的にも若くなく、結婚して2児があった。こうした年長で係

累の多い将校などの場合、特攻としては採用されないのが原則である。当然のように藤井中尉の志願は却下された。しかし『教え子が死んでいくのに、自分だけがおめおめと生きているわけにはいかない』という彼の信念は変わらなかった。妻は最初は反対したが、次第に夫の固い覚悟に押し切られるかたちになった。夫は再度却下されると、今度は血書して願書を提出した。夫の決意の固さを知った妻は、後顧の憂いを絶つために昭和19年12月15日、近くを流れる荒川に、2人の子を道連れに投身自殺した。自分たちが生きていては心残りとなるでしょうから、お先にいつて待っています、という遺書が残されていた。血書の願書に妻子の自殺・・・藤井中尉の特攻志願は受理された。12月20日のことであった。

《藤井中尉の遺書》

書簡
冷え十二月の風の吹き飛ぶ日 荒川の河原の露と消し命。母とともに殉国の血に燃ゆる父の意志に添って、一足先に父に殉じた哀れにも悲しい、然も笑っている如く喜んで、母とともに消え去った命がいとほしい。父も近くお前たちの後を追って行けることだろう。嫌がらずに今度は父の暖かい懐で、だっこしてねんねしようね。それまで泣かずに待っていてください。千恵子ちゃんが泣いたら、よくお守りなさい。ではしばらく左様なら。父ちゃんは戦地で立派な手柄を立ててお土産にして参ります。では、一子ちゃんも、千恵子ちゃんも、それまで待ってて頂戴。



藤井一中尉(少佐)

《いまのぼくたち》

戦争・原爆・天皇・特攻・敗戦・教育・・・。それぞれを学び感じることは、一人ひとり異なるでしょう。どんな感じ方でも間違いではない。正しさなんてない。そして真実は誰にもわからない。だからぼくは史実よりも、自分がなにを感じたか、を大切にしている。感じたことが全てと言ってもいい。ぼくがこうして何度も知覧に足を運ぶのは、今の自分があまりにも中途半端に生きていると思うからです。日常の暮らしに明け暮れ、いのちを燃やすほどの生の証が不鮮明だからです。たぶんそれはぼくだけではない。豊かになったのに毎日100人も自殺している。信じられないような犯罪が激増している。刑務所は定員オーバー。うつ病は身近な存在になり、離婚はポピュラーな手段となり、人間関係は薄く・・・。何かがおかしい。誰もがそう感じている。その解のヒントが知覧にはあるような気がしてならない。・・・やはり書き上げられませんでした。来月号はやはり『トメさん』を書かないわけにはいきません。『特攻の母』と慕われたトメさんは『アメリカ兵の母』となり、そして『人類の母』として生きられたのです。浅学なぼくにはわずかな表現しかできませんが、その姿を書きたいと思ひます。

上記資料は『ホテル館』 赤羽礼子・石井宏著(草思社)より引用させていただきました。